

5 ラウンドシステムにおける「聞くこと」の力を支援する 効果的な ICT 活用 (中 1~3 年, ラウンド 1)

①聞く ①話・発 ③TV ④ジャムボード ③④その他

【ここがポイント！】

①「Google ドローイングを活用したピクチャーカードの並び替え」

生徒はストーリーの概要を聞き取りながら、各自のクロームブックを使ってピクチャーカードを並び替える。ピクチャーカードを並び替えながら音声を聞き取るので、生徒はストーリーをイメージしやすい。

②「Google ジャムボードを活用した意見交流」

聞き取ったストーリーの概要について、Google ジャムボードを使って友達と意見を交流する。また、概要だけでなく扱われている表現についても交流する。

③「録音・録画機能を活用したスピーキングテスト」

対面でのスピーキングテストの代わりに、生徒はタブレットを使って録音・録画したものを Google クラスルームに提出する。

④「Qubena (キューピナ) を活用した文法事項の確認」

コミュニケーションを支える文法事項の確認として、Qubena (キューピナ) を使って生徒が自分のペースで学習に取り組む。

【実践の目標】

日々の授業で ICT 機器を取り扱う中で、生徒自身が言語への「気付き」を実感できる授業を行う。

【実際の場面】

ラウンドシステムの授業で、生徒の「聞くこと」の力を支援するため、Google ドローイングや Google ジャムボードを使用した。Google スライドを使って生徒はプレゼンテーションを作成し、そのことについて発表した。帯活動や家庭学習では、Qubena (キューピナ) を使って自分のペースで学習に取り組んだ。

◆ラウンド1での Google ドローイングの活用

生徒が教科書のストーリーを繰り返して聞き、自分のクロームブックでピクチャーカードを並び替えた。この活動を通して話の概要を把握し、「聞くこと」の力を伸ばした。



◆大型テレビで表示

各単元の最後の時間でピクチャーカードを大型テレビで表示し、音声を聞きながら、クラス全体で話の概要を確認した。そして、登場人物になりきり、音声と合わせてシャドーイングをした。

◆Google ジャムボードで生徒が掴んだ内容を交流

教科書やピクチャーカードを見る前に、音声で聞き取った内容を、ジャムボード上で付箋に書いたり、画像を貼ったりした。グループで意見交流を行う中で、新しい気付き等が生まれた。

◆録音・録画機能を活用したスピーキングテスト

対面でのスピーキングテストの代わりに、タブレットを活用したスピーキングテストを行った。デジタル教科書の音声と合わせ、音読したものを録画し、Google クラスルームに提出した。教師が「聞く」と「話すこと[発表]」の内容のまとめりで評価した。これはコロナ禍においても有効な取組となった。

◆Google スライドで発表

生徒は、聞き取った内容の理解を深めるため、単元のテーマに基づき、Google スライドでスライドショーを作成し、授業で発表した。

◆Qubena (キューピナ) を使った文法の確認

言語活動を行う中で生徒が伝えられなかった表現等を Qubena (キューピナ) を使って確認した。これを繰り返しながら表現の定着を図った。

【成果と課題】

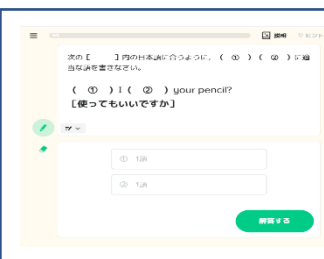
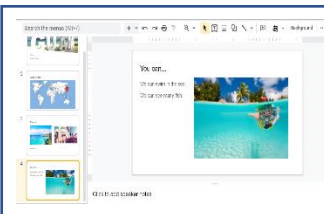
【成果】

- 生徒が、自分の端末で話の内容を聞き取ろうとする活動(ピクチャーカード並び替え)を通して、概要を理解する(聞く)力を伸ばすことができた。
- ICT を使用し、今までと違う形でコミュニケーション(発表・ジャムボード等)を図ることで、楽しみながらチャレンジしたいという生徒が増えた。
- シャドーイングやスピーキングテストにおいて、音声と合わせて音読したいという生徒の意欲が高まった。授業以外でも主体的に録音にチャレンジし、イントネーションや発音にもこだわって表現しようとする生徒が増えた。
- 音声を繰り返して聞いた表現を Qubena (キューピナ) を使って確認した。教師も生徒の個々のつまづきを把握することができた。

【課題】

- 文法事項を取り扱う時間が必要以上に多いと、生徒は細かい文法を気にしすぎて、ラウンド1の大きな目標である「話の概要を理解する」ことが難しかった。文法事項に触れるタイミングと量を見直していく必要がある。

福山市立鞆の浦学園



授業支援アプリ「ロイロノート・スクール」等を活用した
プレゼンテーション及び発表練習の工夫
(NEW HORIZON English Course 3 Unit 1 Sports for Everyone)

①話・発

②協・発

②評価

③タブ

④ロイロノート等

【ここがポイント！】

①「ロイロノートの活用」

プレゼンテーションに必要な写真等を集め、ロイロノートで提示資料を作成する。ロイロノートの画面を見せながらプレゼンテーションを行い、その姿をペアで撮影し合う。撮影した動画をロイロノートの生徒間通信で送受信し、動画を見ながら自分の表現を練り直す。

②「発表練習の工夫」

ペアでの発表練習は Google ミートを活用する。あらかじめロイロノートにお互いの英語の原稿を送信し合う。ペアの相手の発表を聞きながら、区切りや発音などの修正すべき点やよりよい発表になるためのアドバイスを原稿に記入し、生徒間通信で相手に返却する。自分の発表動画と原稿をもとに、反復練習を行う。一番良いと思うプレゼンテーション動画を指導者へ提出し、後日、評価をする。

【実践の目標】

ペアでアドバイスをし合うことで、他者からのアドバイスをもとに、表現を練り直し、プレゼンテーションの質を向上させることができる。

【実際の場面】

1. プレゼンテーションに必要な情報を集める

夏休みに日本に遊びに来ることになった外国人中学生に、「おもてなしプラン」を紹介するために必要な写真等を集め、ロイロノートのカードに貼り付ける等、情報収集の場面において、ロイロノートを活用した。

2. プレゼンテーションの原稿を送信する

プレゼンテーションの原稿を作成し、ロイロノートの生徒間通信の機能を活用し、ペアの相手に送信した。



3. ペアの相手の発表を聞き、アドバイスする

Google ミートを活用して、ペアの相手の発表を聞き、相手の原稿に修正すべき点やアドバイスを記入した。

4. 個人で表現を練り直す

ペアの相手から返信された原稿のアドバイスを参考に、表現を練り直した。

5. 繰り返し、発表の練習をする

ペアでお互いの発表を撮影し合い、よりよいプレゼンテーションとなるように、動画と原稿を何度も見直しながらか繰り返し練習した。

6. プレゼンテーションの撮影を行い、動画を提出する

プレゼンテーションの撮影をペアで行い、相互に内容を確認した。その後、ロイロノートの機能を使い、指導者に提出した。

7. 評価を行う

後日、プレゼンテーション動画について、相手の要望に合った表現となっているか、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

- ペアでお互いに撮影し合うことで、自分の発表を客観的に見ることができ、よりよい発表を目指すための意欲付けとなった。また、ペアでお互いにアドバイスをし合うことで、それぞれの生徒が、他者からのアドバイスをもとに表現を練り直すことができた。
- タブレット端末を家庭に持ち帰り、タブレット端末に保存された発表動画や原稿を見ながら発表の練習をすることで、個人での練習が充実し、プレゼンテーションの質の向上につながった。

【課題】

- 生徒がタブレットを使う機会を意図的に設定し、言語活動の充実に向けた、より効果的な活用方法について研究を進めていく必要がある。

呉市立広南中学校



Chromebook を活用した自己紹介までの一連の活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course 3 Unit2 Unit Activity 初公開! 「私の〇〇歴」)

①話・発

①統合

②協・遠

②評価

③タブ

【ここがポイント!】

④Google ミート等

①「Google ミート と Google クラスルームを活用」

3年生用の Google クラスルームを作る。自己紹介の練習を個人やペア学習で行った後、Google クラスルームの「クラスのビデオ会議」で、グループごとにビデオ会議を行う。画面上の自分だけでなく仲間の顔を見ながら、お互いの紹介を聞き合い、話すスピードや発音の確認、笑顔やアイコンタクトを意識して行う。また、相手の自己紹介文を聞いて、1つ以上質問をする練習を行い、質問されたときにどう答えたらいいのか考えることができる。

②「Google フォームを使った自己評価」

当日のリモート交流授業後、Google クラスルームに自己評価カードを投稿し、授業についての振り返りを行う。指導者は、生徒の回答が質問ごとにグラフで表されるため即座に評価できる。

【実践の目標】

既習の文法事項を活用して、自己紹介を大崎上島町立大崎上島中学校の3年生に、分かりやすく伝えることができる。

【実際の場面】

1. 自己紹介文を作成する

自分が相手に伝えたい内容を考え、自己紹介文を書いた。伝えたい内容について辞書や Google 翻訳を使って英文を考えた。

2. 自己紹介文の練習を行う

各自作成した自己紹介文を発音やスピードに気を付けながら練習した。ALT が自己紹介文を聞き、発音の間違いやリズムなどを修正した。



3. 個人やペア学習で発表の練習をする

自己紹介文の練習を行った。単語の発音が分からない時はクロムブックを使って確認した。

4. Google ミートのビデオ会議でグループ練習

グループごとに自己紹介文の練習を行った。お互いによかったところや直した方がいいところなどを評価し合った。

5. 大崎上島中学校とのリモート交流授業

両校が Google クラスルームに参加し、ビデオ会議を行った。各グループ2~3名ずつで15分間行った。1人ずつ自己紹介を行い、相手校の生徒が1つ以上の質問をした。

6. 各グループで交流する

自己紹介が終わった後、各グループでよかったところなどを話した。

7. 評価を行う

後日、Google クラスルームに Google フォームで作成した自己評価カードを投稿し、各生徒が回答した。相手校と評価を共有し、生徒にフィードバックを行った。

【成果と課題】

【成果】

- Google ミートのビデオ会議を用いることで、グループで「練習」「交流」「評価」を行うことができた。グループ編成も生徒が席を移動することなく替えられるので、様々な相手と交流させることができ、生徒の言語活動の増加につなげることができた。
- 自己紹介文を相手に分かりやすく伝えようと、個人練習を積極的に行い、教師に発音や英文についての質問をする生徒が増え、自分の考えや気持ちを英語で話そうとする意識が高くなった。

【課題】

- 今回英語でのリモート交流授業を行ったのが初めてだったため、生徒はクロムブックの機能操作に慣れるまで最初はとまどっていた。次回は個人練習を増やしていく。録画機能を使って、個々が英文を読むところを動画に残し、発音やイントネーション等を自分で客観的に評価していく学習活動を行っていきたい。

竹原市立賀茂川中学校





タブレットを活用した学習活動

「GWの思い出について英語で紹介しよう」

(NEW HORIZON English Course 1 Unit 2 A Trip to Singapore)

①話・発

①話・や

②個・表

②協・発

③タブ

【ここがポイント！】

①「場面・状況などの視覚化」

自分の伝えたい内容を表す写真、イラスト等を活用し、パワーポイントで相手を意識してプレゼンテーションをする。行った場所や見たものなど実物では準備しづらいものもデータとして多くの情報を容易に示すことができ、より効果的に伝えることができる。

②「発表機会の充実」

学習者用タブレット端末の活用により、同時に複数の生徒が発表できる。クラスの中で4人班のグループを作り、小グループで繰り返し発表をすることで、互いの発表を聞き合い、相互評価ができ、主体的な課題解決・質の向上につなげることができる。

【実践の目標】

G.Wの思い出について、伝えたい内容を表す写真やイラスト等を準備し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションをすることができる。相手を誘う表現等も活用し、聞き手を意識したプレゼンテーションをすることができる。

【実際の場面】

1. 本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る

言語活動の目的や場面を知り、自分が表現したい内容について考えた（時、場所、状況、自分のしたことなど）。

2. 本単元の言語活動で活用できる言語材料の文構造を理解する

未来形 (be going to, will), show 人+物, call AB などの使用場面・使用方法などを学んだ。

3. 本単元の言語活動で活用できる表現を学ぶ

教科書本文から、言語活動で活用できる表現を探した。その表現を活用して自分の伝えたいことを表現する方法を考えた。

4. パワーポイントを作成する

自分が伝えたい内容を整理し、それを伝えるための写真やイラストをタブレットで撮影し、パワーポイントを作成した。

※この際、パワーポイントの作成が主な活動とならないよう指導する。あくまで伝えたいことを効果的に伝えるためのツールであることに留意させた。

※他教科との連携を図り、技術科の授業（情報）と関連した指導を実施した。

5. 発表の練習をする

各自作成したパワーポイントをもとに個人練習をした。その後、ペア練習をし、グループ発表に向けた準備をした。自分の振り返りとともに相互評価によって、改善点を出し合い、言語活動の質の向上に努めた。

6. グループ発表および全体交流

自作のパワーポイントをもとにグループで発表を行った。様々な相手に発表することで相手を意識したプレゼンテーションをする技能を身に付けた。また、よかったものをモデルとして電子黒板で全体に紹介し、よかった点（英語表現、相手意識など）を共有した。

【成果と課題】

【成果】

- 個人用タブレットを活用することにより、生徒一人一人の意欲の向上に繋がり、伝えたい・表現したいという意欲の高揚が見られた。
- デジタルで作成することにより、場面や相手を変えて何度も行うことができ、言語活動の機会が充実し、英語表現の定着や表現の能力の向上につながった。

【課題】

- 教師、生徒ともにタブレットの使用に慣れていないことにより使用方法の指導に時間がかかった（アプリの使用方法、保存方法、タブレット使用方法など）。
- 使用に慣れていないため、基本的な活用のみ限定した。今後は動画撮影をし、自分の振り返りに活用し、質の向上につなげるなどのさらなる工夫をしたい。

タブレットを活用したパワーポイント作成と ALT に向けた発表
(NEW CROWN English Series3 Lesson2 Use Write おすすめの日本語を紹介しよう)

①話・発

②個・表

②協・発

③タブ

③TV

【ここがポイント！】

④パワーポイント

① 「1人1台端末でのパワーポイント作成と発音練習」

- ALT に紹介する「おすすめの日本語」の使用場面が分かる写真を自分たちで考え、それぞれの端末で撮影する。その写真をスライドに貼り付け、パワーポイントを作成する。
- ワードのディクテーションの言語設定を英語にし、発表原稿を読む練習をする。

② 「大型テレビを用いた発表と振り返り」

- 生徒がそれぞれの端末で作成したパワーポイントをチェックすると同時に1つのUSBメモリに保存する。発表の際には教師のタブレットからパワーポイントをテレビに映し、操作する。
- 指導者が予備のタブレットで発表中の動画を撮影し、生徒が自分の発表動画を見て振り返る。その際、ALT が使う評価表と同じものを使って自己評価をする。

【実践の目標】

おすすめの日本語を ALT に分かりやすく説明することができる。

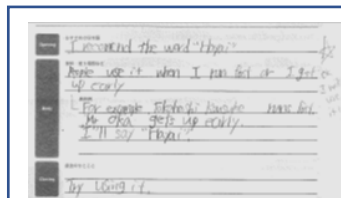
【実際の場面】

1. プレゼン原稿を作成する

教科書の原稿を参考に、自分のおすすめの日本語を1つ選び、原稿を作成した。

2. 写真を撮影する

おすすめの日本語が使われる場面を考え、それに合った場面の写真をそれぞれのタブレットで撮影した。



3. パワーポイントを作成する

タブレットで各自パワーポイントを作成した。スライドの1枚目に紹介する日本語とそのローマ字表記、スライドの2枚目以降は写真のみというシンプルな内容を指定し、それぞれがあまり時間をかけずに作成できるようにした。

4. 発表の練習をする

ワードのディクテーション機能を用いて原稿の読み練習を行った。正しく発音をすることができれば、原稿通りの文章が表示される。正しく表示されないものに関しては、その部分を重点的に練習することができた。

5. ALT に向けて発表をする

パワーポイントを見せながら発表をした。指導者のタブレットに全員分のパワーポイントのデータを保存しておき、操作は指導者が行い、生徒が発表に集中できるようにした。

6. 動画を見ながら振り返りをする

指導者が予備の生徒用タブレットで発表の様子を撮影したのを見せ、自己評価をさせた。評価表はALT が使うものと同じものを使い、生徒が自己評価をした後にALT が評価を付けた表を配布し、自己評価と他者評価とを比較できるようにした。

【成果と課題】

【成果】

○生徒に自分のおすすめの日本語に合う写真の内容を自由に考えさせ、それぞれで撮影ができるようにすることで、生徒は様々なアイデアを出し、分かりやすい写真をパワーポイントに取り込んだ。写真の内容を自分たちで考えることにより、原稿に頼ることなく自分の言葉で伝えるための手立てとなった。

【課題】

○今回は発表のみだったが、発表後に生徒同士や指導者と内容についてのやり取りをさせる場面を設定すれば、聞き手にとっても話し手にとってもさらに言語活動を充実させることができた。より聞き手にとって分かりやすい発表にするために、生徒が何度も自分の発表を録画して見返す場面を設定することで、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげたい。



| Class | SD () | Name () | | | | |
|---------------|--|----------|-----------|-----------|------|------|
| Judging Items | | | Excellent | Very Good | Good | Fair |
| Attitude | Try to contribute to conversations by questions and gestures | | | ✓ | | |
| Attitude | Big and Clear Voice Eye contact Fluency | | | | ✓ | |
| Pronunciation | | | | | ✓ | |
| Expression | | | | | | |

Photo Haiku Book の共同作成と、相互鑑賞、
評価の共有における ICT の活用
(NEW HORIZON English Course 3 Unit2 Haiku in English)

① 統合

② 個・調

② 協・発

② 評価

③ タブ

【ここがポイント！】

④ Google スライド

◎タブレットを効率よく使って協働し、言語活動の量と質を向上することができる

①「協働で作品制作」

Photo Haiku in English を作成し、Google スライドでブック形式にしてクラスごとにまとめる。共同編集で作成することで、互いにどんなアイデアで写真を取り入れ、言葉を選択するかを確認し合い、協働して作品作成に取り組むことができる。途中経過を共有することで、自然にアドバイスし合い、それぞれスムーズに練り直すことができる。

②「Google ジャムボードの活用」

作品鑑賞は、スライドになっているので各自で何度も見ることができる。また、相互に評価やコメントを贈る活動では、Google ジャムボードを使い、多くのコメントを贈ることを目標とする。また、他の人のコメントを見ることで、表現をより良いものや適切なものに工夫しようとする意欲が高まる。

【実践の目標】

Photo Haiku づくりを通して、日本文化の魅力と英語の楽しさを感じることができる。また、協働学習を通して、アイデアや表現を深めることができる。

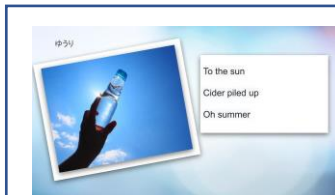
【実際の場面】

1. Photo Haiku の作り方の動画を見てイメージを高める

Haiku in English のルールを確認した。クラスでテーマを決めて、それぞれが俳句を詠みたい写真を集めた。フリー素材、またはタブレットでの撮影とした。

2. クラスの Haiku Book というスライドで、ページを決めて作品制作を行う

早く進む人の作品や、言葉のチョイスのセンスについて紹介するだけで、より工夫して取り組んだ。



3. Photo Haiku Book として作品完成

ALT の先生とスライドショー鑑賞会を行った。ALT の先生に言いたいことが伝わっているかを確認した。

4. 多少の微調整ありで作品の最終提出

それぞれの提出スライドに貼り付けて Google クラスルームに提出した。個人作品として ALT、JTE がそれぞれコメントをつけて評価して返却した。

5. スライドショーを見ながら、英語でクラスメイトにコメントをする

これまでは、紙の付箋を使ってきたが、今回の学習で初めて Google ジャムボードを使った。コメントを共有しているので、意欲的に表現に工夫を加える生徒が出てくる。その良さについて表現とコミュニケーションの観点での評価を紹介することで、全体の言語活動の質と量も向上した。

6. 評価への活用

後日、Google ジャムボードを整理してその表現の質と量について指導者が評価を行った。

【成果と課題】

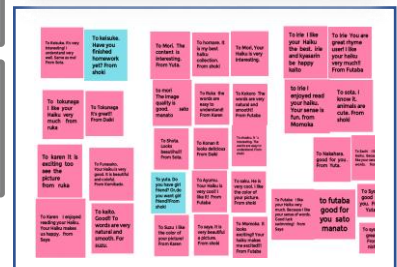
【成果】

- Photo Haiku の作成を共同編集で行うことで、スライド作成の操作技能が向上した。また、互いにアイデアや表現を練り直すことで、言語活動の質・量とも向上した。
- 完成作品を評価する際に、タブレット上の Google ジャムボードで行うことで、無駄なくより多くのコメントを書くことができ、言語活動の質・量とも向上した。さらに、表現を共有し合うことで、コメントの表現力を意欲的に伸ばすことができた。
- 作品もジャムボードのコメントもクラスルーム上で評価できるため、ALT と共同での評価が効果的にできた。

【課題】

- 共同編集では操作方法とルールを徹底しないと、間違っって消去してしまうなどトラブルになるため注意が必要であると感じた。
- Google ジャムボードを初めて使用したため、よりスムーズに整理できないかを感じた。

廿日市立阿品台中学校



タブレットを活用した先生紹介までの一連の活動と学習評価 (Here We Go! English Course1 Unit4 Our New Friend)

①書く

①統合

①話・発

②協・整

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④Google ジャムボード等

①「Google ジャムボードの有効利用」

Google ジャムボードを利用し、表現したい内容と画像等を貼り付け、英作文を全体で交流し、よりわかりやすい英文を作成する。指導者はジャムボード上の英文を評価することができる。

②「端末をフルに活用」

先生方にインタビューをするときに写真撮影や動画を撮ることにより、情報をしっかりと収集する。

その情報を基に英作文を作成する際、端末で発音・表現方法を調べる。英作文の発表に関しては、発表の様子を動画に撮り、相手にわかりやすく伝えているかを確認し、改善する。

【実践の目標】

事前にインタビューした内容を踏まえて、ALT に対して、三高中学校の先生方の知らない情報を紹介することができる。

【実際の場面】

1. インタビューの質問事項を考える

質問項目を考えた。自分たちで ALT が知らない情報を考え、質問事項を設定した。

2. 先生方にインタビューをする

ペアになり、それぞれが担当をした先生に英語でインタビューを行った。その回答を端末のメモ機能や動画により活用した。

3. 英語表現を見直す

インタビューをした情報を英文に書き換えるための基本文法や、表現方法をスライドで復習した。



4. ジャムボードでマッピングする

先生から聞き取ったメモや動画をもとに、各自で与えられた Google ジャムボードを使って情報を付箋に貼っていき、マッピングをした。

この時に分からない英単語は端末の翻訳機能を使って調べた。

5. 英作文を作成

ジャムボードを参考に紹介文を英語で作成した。

6. 全体で交流

各自作成した英作文をジャムボードで交流し、良い点や改善点等の助言を記入した。

7. 英作文を推敲し完成する

ジャムボードの助言を参考に英作文を推敲し、完成文をワークシートに記入した。

8. 評価を行う

Google フォームの振り返りシートで自己評価を行った。後日、教師用フォルダに提出されたスライドとジャムボード、ふり返しシートについて、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

○書くことが苦手な生徒に対しての支援として Google ジャムボードや端末機能を有効活用し、苦手な生徒も積極的に参加し、自分の言葉で考える時間が増えた。

○ジャムボード機能を活用して考えを短時間で共有し、改善することを主体的に考え、改善する活動が少しずつ定着しつつある。

【課題】

○評価規準について多面的に設定し、生徒に共有しておくことが大切だと感じた。さらに端末を生徒自身がシンキングツールとして活用できるよう工夫していく。その際に、生徒の思考過程が学習の足跡として端末に1時間毎記録し、その過程を見直す活動を通して、言語活動の充実を図っていく必要がある。

○書くことの活動においてアナログとデジタル両方のメリットを効果的に活用することができなかった。継続して他の機能を活用しながら、生徒が「書く」ことの学習効果を探し、英語部会で討議していく必要がある。

江田島市立三高中学校



生徒の Retelling や Sharing の質を高める
学習者用パソコンや電子黒板の活用
(SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 2 Good Night, Sleep Tight.)

①話・や

①書く

②協・整

③タブ

③TV

【ここがポイント！】

④Google スプレッドシート

①「Retelling の時間（ペア・4人グループ）の充実！」

デジタル教科書を活用し、テキストに関する内容を理解した後、写真や絵画、グラフ等を読み解き、生徒は自分が話したいことを決める。各自学習者用パソコンを使用し、話したい単語の意味や内容について調べる。その際、相手とのやりとりを意識し、難易度の高い単語は、理解しやすい単語に置き換える点も生徒は考える。生徒が話し合いたくなるように Retelling の時間を充実させ、必然的に「when など＋主語＋動詞」を含む文等の用法を使って話すことができるようにする。

②「Sharing の質を高める Google スプレッドシート（振り返りシート）！」

振り返りシートとして、Google スプレッドシートやテスト付き課題機能を活用して、授業を通して出来るようになったことや真似したい表現、質問等を生徒は入力し提出する。クラス全体で共有し活用出来そうな表現を電子黒板で提示し、生徒の言葉をつなげて、授業をまとめる。

【実践の目標】

Retelling や Sharing を通して、自分が相手に伝えたい内容を伝えることができる。

【実際の場面】

1. 教科書の本文の内容を各自で読み取る

デジタル教科書を活用し、テキストを生徒全員で共有し、テキストに関する様々な問いについて、生徒が考える場面を設定した。各自学習者用パソコンや辞書を使用し、話したい単語の意味や内容について調べた。大まかな内容を読んだり、調べたことについてまとめたりした。

2. 読んだ内容について Retelling をする

キーワードやポイントを示し、簡単に内容をまとめ、ペアやグループで交流した。学習者用パソコンや辞書で調べた単語や選択した表現の難易度について、Retelling を通じて生徒が再考出来るようにした。



3. 英文で表現する

Google スプレッドシートを振り返りシートとして活用し、条件を提示し、話したことを文字で表現した。

4. Sharing①ペアやグループで共有

書いた英文についてグループで交流し、良い所やアドバイスなどを伝え合った。交流後、再度自分の書いた Retelling を見直し、修正したり、グループのメンバーのスプレッドシートを見て、参考になる表現に置き換えたり、メンバーの反応から分かりやすい表現だと分かった表現に置き換えたりした。

5. Sharing②クラス全体で共有

*テーマについてやり取りを行う

生徒は、言いたかったが言えなかった表現や質問等を Google スプレッドシートに入力し、提出した。電子黒板を活用し、クラス全体で共有した。教師が答えるのではなく、生徒からのアイデアで解決した。

6. テスト付き課題を活用した個人の Reflection

Retelling やクラスメイトとの Sharing を通じて出来るようになったことを、テスト付き課題を解き、提出した。各生徒の学習状況に対して、教師はフィードバックを行うなど、学習評価を行った。

7. パフォーマンステストの振り返りを行う

この単元を通して出来るようになったことをまとめ、全体で交流し、次のステップへとつなげた。

【成果と課題】

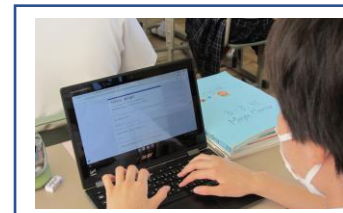
【成果】

○学習者用パソコンや電子黒板を活用し、Google Workspace の様々な機能を授業に取り入れたことにより、生徒が行う言語活動の時間を以前よりも確保することができた。全体で発表するのが苦手な生徒の意見も取り上げることで、多くの生徒の言葉を授業で取り上げたりすることができた。生徒の意見を Google ジャムボードにまとめ、次の時間には導入として活用することができた。

【課題】

○生徒に、毎回新しいシートを提出させるのではなく、単元のつながりが見える形でスプレッドシート等（振り返りシート）を作成していく必要がある。

府中町立府中緑ヶ丘中学校



タブレットを活用した比較クイズづくりと学習評価 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 PROGRAM 4 High Tech Nature)

- ①話・や
- ②個・表
- ②協・整
- ②評価
- ③タブ

【ここがポイント！】

①「Google ジャムボードを用いた言語表現についての気づきの創発」

Google ジャムボードを用いて形容詞・副詞の活用（比較級・最上級）について、活用ごとに整理分析する。グループでは、“I think this is in Group A.”などの表現を用いて協働しながら整理分析を行う。

②「Google スライドを用いた比較クイズ」

Google スライドを用いて、比較クイズをそれぞれが作成し、グループ内で出題して答えていく言語活動を行う。画像等を活用することによって、言語活動の際、未習の言葉でも推測しながら取り組むことができる。

【実践の目標】

比較表現を用いて比較クイズを作成し、応答することができる。

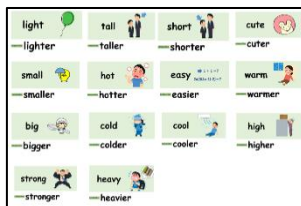
【実際の場面】

1. 形容詞・副詞の活用について整理分析する

Google ジャムボードを用いて形容詞・副詞の活用について整理分析を行った。グループでは、“I think this is in Group A.”などの表現を用いて整理をし、Google ジャムボード上では、分類したものにラベリングの様子が見られた。

2. 比較クイズを通して表現を定着させる

指導者が作成した比較クイズを通して、比較表現を定着させるとともに、自分たちが作る比較クイズのイメージを持たせた。



3. Google スライドで比較クイズを作成する

てんびんのイラストを土台にしながら、クイズを作成した。

4. 発表の練習をする

ペアで比較クイズの発表練習を行った。クイズを行っていく上での言語表現を学習したり、クイズで用いる表現を吟味して修正したりした。

5. 比較クイズを出し合う

グループ内で比較クイズを出し合い、お互いに答えていった。ペアは事前に内容を把握しているため、比較クイズを出してやり取りしている様子を動画で撮影し、指導者に提出した。

6. 全体で交流

提出されたものの中からいくつか選定し、全体で比較クイズを行った。

7. 評価挿入

提出された動画をもとに、ループリックに照らし合わせて指導者が評価を行った。

【成果と課題】

【成果】

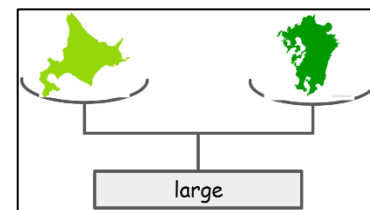
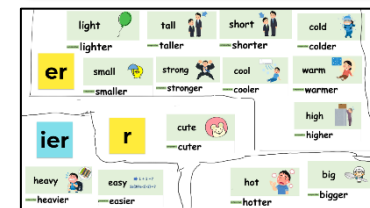
○Google ジャムボードを用いて画面上のカードを動かしながら活動を行うことで、活動が促進された。整理分析を行う場面で、表現を繰り返し用いることで活動に慣れ、自信を持って発話の様子が見られた。

○提出された動画をもとに評価することで、繰り返し見返すことができ、よりにくいものに評価を行うことができた。

【課題】

○比較クイズを作成する場面で、生徒の英語に触れる時間が少なくなってしまうなど。反転学習としてクイズを作らせてくるなど、状況によって授業内外それぞれで行う活動を精査する必要があると考える。

海田町立海田西中学校



班でのスライド作成と発表、評価の工夫 (SUNSHINE ENGLISH CURSE 2 Our Project 4 「夢の旅」を企画しよう)

①話・発

①統合

②協・発

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

①「Google スライドの活用の工夫」

A L Tの両親が日本に来た時におすすめする日本旅行の企画を班で考え、タブレットでおすすめ旅行の場所の特徴や良い点やわからない単語を調べる。マッピングをもとに英文を作成する。その後、各班で1つのスライドを用いて、紹介する旅行の場所の画像や文字等を張り付け、班で1つのプレゼン資料を作成する。

②「発表と評価の工夫」

班で作成した画像を張り付けたプレゼンテーションの資料を見せながら、班ごとに発表を行う。見ている生徒は、アンケートフォームを使って5段階の相互評価を行うとともに班の良かった点を記入させ、すぐにその場で評価を共有する。

【実践の目標】

A L Tの両親が日本に来た時におすすめする日本旅行の企画を班で考え、英文とプレゼンテーション資料を作成し、協力してプレゼンテーションをすることができる。
作成した英文をイントネーションや発音等に気をつけながら、A L Tに伝えるように発表することができる。

【実際の場面】

1. インターネットでおすすめの旅行の情報を収集する

おすすめする日本旅行の場所を班で決め、インターネットでその場所の情報を調べた。

2. その旅行で楽しめることを考える

教科書を参考にし、その旅行で「楽しめること」をキーワードでまとめた。

班で 考えよう！

★探し求めること

| | | |
|-----|-----|-----|
| 人カ申 | 抹茶 | 法隆寺 |
| 八ッ橋 | 京都 | 着物 |
| 金閣寺 | 銀閣寺 | |

3. 1で調べた情報を整理する

班で対話をしながら、2をもとに「事実」と「自分の気持ちなど」をまとめた。

4. プレゼンテーションの英文を作成する

3で作成した情報をもとに、英文を作成した。わからない単語は辞書や翻訳ソフトで調べた。

5. 班でプレゼンテーションの画像等を張り付ける

班で1つのスライドに画像や文字等を張り付け、プレゼン資料を作成した。

6. 班でプレゼンテーションの練習をする

プレゼンテーションの練習を班で協力して行った。

7. 班でプレゼンテーションを行い、アンケートフォームで相互評価を行う

班ごとにプレゼン資料を見せながら、A L Tの前で発表した。A L Tは、発表後に質問をし、生徒は協力して答えた。見ている生徒は、アンケートフォームを使って、5段階評価を行い、最後に「どの班のどんな所が最も印象に残ったか」を記入させ、すぐにその場で評価を共有した。

【成果と課題】

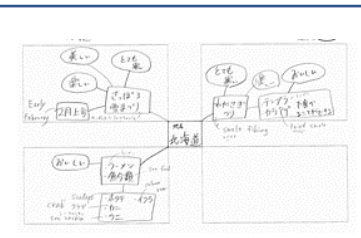
【成果】

- タブレットを用いることで、自分で旅行先の情報やわからない英語の単語を調べることができた。また、プレゼンテーション資料を班で作成することで、班で協力し、よりよいプレゼンテーションをしたいという意欲が高まった。
- プレゼンテーション資料を発表の時に使用することで、英語とともに情報を伝えることができた。
- アンケートフォームで評価を行うことで、評価をすぐに共有でき、時間を節約できた。また、その場で、生徒のコメントを読むことができ、ほとんどの生徒が達成感をもつことができた。

【課題】

- 教員自身が操作に慣れておらず、タブレット操作の練習が必要だと感じた。
- プレゼンテーションの資料を作成するのに時間がかかったため、練習に時間を費やすことができなかった。

熊野町立熊野東中学校



タブレットを活用したリテリングまでの一連の活動と学習評価 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 1 Bentos Are Interesting)

①書く

①話・発

②個・表

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④ミライシード

①「ミライシードを活用して英文の原稿とリテリング動画を提出」

教科書のProgramの本文の内容をリテリングするために、生徒はプリントにまずメモし要約文を整理する。そして、タブレットのミライシードを活用して、英文入力をして提出する。その後、リテリングを繰り返し練習した後、ミライシードを活用して動画を提出する。

②「二次元コードを活用して音読練習」

生徒は自分のペースで教科書の二次元コードを読み取り、必要な英文の発音を何度も練習することができる。

③「提出した英文の原稿とリテリング動画を評価」

教員は、後日、タブレットに提出された原稿と動画を評価することができる。

【実践の目標】

A L Tに日本や海外の弁当文化について、“Bentos Are Interesting!”をわかりやすく伝えることができる。

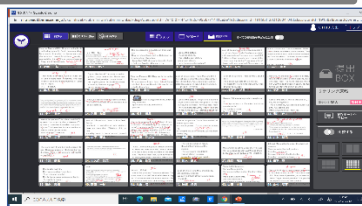
【実際の場面】

1. Program 1の内容を要約し、要約文をタブレットで英文入力をする

“Bentos Are Interesting!”の本文を要約し、教科書の絵や写真を活用してわかりやすく伝えるための原稿を作成した。タブレットでの英文入力は初めてだったため、大文字、カンマ、アポストロフィーやスペースの入力等キーボード入力の初歩的スキルを習得することができた。

2. リテリング原稿をタブレットのミライシードを活用して提出する

1分間のリテリングになるようにと伝えた。また、A L Tにわかりやすく伝えるためにどうしたらいいか考えさせながら原稿を完成させた。



3. 教科書の二次元コードを読み取り音読練習する
教科書の本文の二次元コードをタブレットから読み取り、リテリング原稿を見ながら発音やアクセント等の確認をし、音読練習をした。

4. リテリングの工夫を考える

まずは原稿を頭に入れて、間の取り方、ジェスチャー、アイコンタクトの場面を考えた。また、タブレットを通じて、教科書の写真や絵の紹介の仕方の工夫も考えた。

5. リテリング発表の練習をする

リテリングの工夫を取り入れ、タブレットのミライシードの動画機能で撮影した。自分のリテリング動画を見て、改善点を見付け、改善点を踏まえた上で何度も発表の練習をした。

6. リテリング動画を提出する

何度も練習した中で自分の一番のリテリング動画をタブレットのミライシード機能を活用して提出した。

7. 後日評価を行う

ミライシードに提出されたリテリングの原稿と動画について指導者が評価を行った。

【成果と課題】

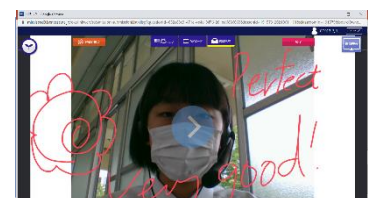
【成果】

- ヘッドフォンセットをつけることで、自分の発音なども他人に聞かれることなく黙々と意欲的に練習し、その動画を自己評価することで達成感を感じていた。さらに、発音や表情の改善点を修正したりすることで「話すこと」の言語活動の量が増えた。
- キーボード入力などの初歩的スキルを習得し、操作も速くできるようになったり、検索機能で、表現や発音などを自分で調べたりすることができる生徒が増えた。

【課題】

- 生徒が撮影した英文や動画を評価する際に、ミライシードでは評価の時間がかかり教員側の負担が増えた部分がある。効率的にできる方法を検討する必要がある。

坂町立坂中学校



Google ミートを用いた 島外の中学生との遠隔交流授業

①話・や

①統合

②協・遠

③タブ

【ここがポイント！】

④Google ミート

①「Google ミートを使ったやり取り」

Google ミートを活用し、他市町の生徒と英語でやり取りをする。オンラインを利用したやり取りであるため、生徒の緊張も軽減され、意欲的に活動に取り組む姿勢が見られる。

②「端末の検索機能を活用した書く活動」

生徒に英作文をさせる際、英語学習サイトの検索フォームを活用して未習の表現（語句）を調べる。これまで使用していた中学生向けの紙の辞書では収録語数に限りがあったが、タブレットであれば自分が言いたい表現をいつでも調べることができる。

【実践の目標】

島外の中学生に対して、自分に関することをわかりやすく説明したり、相手の自己紹介を聞いて質問したりすることができる。

【実際の場面】

1. 自己紹介文を考える

自己紹介作成シートをもとに、自己紹介の英文を書いた。（部活動、習い事、好きなもの、好きな有名人、興味のあること、住んでいる地域の紹介など）基本的には提示した例文を参考にして英文を作成させた。わからない表現については、英語学習サイトの検索フォームを活用した。

2. 自己紹介文を推敲する

初対面の相手にあてた自己紹介文としてふさわしい内容となるように、自己紹介文を繰り返し読み、英文を加筆修正した。その後、ペアで互いの自己紹介文を聞きあい、それぞれの内容についてアドバイスを出し合っ、さらに自己紹介文を推敲した。

3. 自己紹介の練習をする

各自作成した自己紹介文をもとに、ペアで自己紹介の練習をした。その後、ペアの生徒に質問をもらい、即興的に質問に答える練習を行った。

4. 島外の中学生と遠隔交流

Google ミートを活用して、遠隔で自己紹介を行った。5～7人でグループを構成し、グループ内で自己紹介をしたり、相手の生徒へ質問をしたりした。

5. アンケートを取る

後日、Google フォームを使って、自己紹介と質問に関して自己評価と他者評価を行った。

【成果と課題】

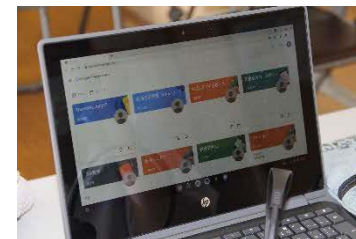
【成果】

○Google ミートを活用したやり取りは、生徒の英語でやり取りをすることへのハードルを下げ、多くの生徒が意欲的に活動に取り組むことができていた。

【課題】

○一斉に Google ミートの機能を使うことにより、グループに入ることができないといった接続に関する不具合が生じた。今後も継続的にタブレットを授業で使用し、機能に慣れていることが必要である。

大崎上島町立大崎上島中学校



| 名前 | 自己紹介文 |
|-------|---|
| 山田 太郎 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動はサッカーです。好きなものはゲームです。好きな有名人は嵐です。興味のあることは音楽です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 佐藤 花子 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動はバスケットボールです。好きなものは読書です。好きな有名人は新垣結衣です。興味のあることは旅行です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 鈴木 健太 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は野球です。好きなものは映画です。好きな有名人は木村拓哉です。興味のあることはスポーツです。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 田中 美咲 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動はダンスです。好きなものは音楽です。好きな有名人はAKB48です。興味のあることはファッションです。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 高橋 翔太 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は剣道です。好きなものは格闘技です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは歴史です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 伊藤 莉子 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は空手です。好きなものは武道です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは武道です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 渡辺 拓也 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は柔道です。好きなものは格闘技です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは格闘技です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 小林 千尋 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は柔道です。好きなものは格闘技です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは格闘技です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 加藤 大輔 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は柔道です。好きなものは格闘技です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは格闘技です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |
| 山崎 真由 | 私は大崎上島町立大崎上島中学校の1年生です。部活動は柔道です。好きなものは格闘技です。好きな有名人は松田龍平です。興味のあることは格闘技です。住んでいる地域は大崎上島町です。 |



タブレットを活用したスピーチ発表と振り返り (NEW HORIZON English Course 2 Unit3 My Future Job)

①話・発

②個・表

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④ ポジショニング

①「動画撮影の活用」

夏休みの思い出についての発表をペアで撮影した後に、単語の発音や、表現の方法について動画を再生して繰り返し確認する。お互いに発表を撮影し合い、何度も練習して、最も良い動画を提出し、指導者はそれを評価する。

②「ポジショニング (SKYMENU Class) の活用」

振り返りの時に「ポジショニング」を活用する。動画の撮影について、提出した内容が課題をどれだけクリアできたのか自己分析させて、どの位置に当たるものかを表現させる。それをクラス全体でシェアして、どうしてそのポジションを選んだのか口頭で具体的に説明させて交流を図る。指導者は各自作成したポジショニングから評価することができる。

【実践の目標】

夏休みの思い出について、ALT に分かりやすく伝わるように工夫をしてスピーチをすることができる。

【実際の場面】

1. 英文を作成する

夏休みの思い出について、英文を作成した。事前に Small Talk やライティングで夏休みの思い出について表現しており、言語活動の時に得た正しい表現や新たな情報を取り入れた内容の英文を盛り込みながら、それらを元に再構成する形で、夏休みの思い出について、英文を作成した。

2. 発表の練習をする

スピーチ原稿を用意して、発表練習を各自行った。そして各ペアで互いに練習を行い、アドバイス等を交流し合った。その後、撮影を複数回繰り返して、何度も見直して工夫改善に取り組んだ。



3. 他のペアと交流する

撮影した動画を他のペアと見合って他者のスピーチから学んだり、アドバイスをもたらしたりするなどして交流を図った。再度動画の撮影を行った。

4. 動画を選択して提出する

複数回撮影した動画から課題をよりクリアしているものを選択させた。提出ボックスに入れるよう指示をして指導者に送信させた。

5. 全体で振り返りをする

ポジショニングを活用して各自の端末で今日のスピーチについて振り返りを行い、その後で全体でシェアをした。スピーチについて、「うまくできた」と「ちょっと・・・」の幅の中で自分ほどの位置に当てはまるかを選択させた。その後、クラス全員が選択した位置を確認して、なぜその位置を選んだのか、具体的に発言させて、今後の学習に自分が感じたことと他者からの学びを全員が活かすことができるようにした。

6. 評価を行う

後日、教師用フォルダに提出された動画について指導者が評価を行った。

【成果と課題】

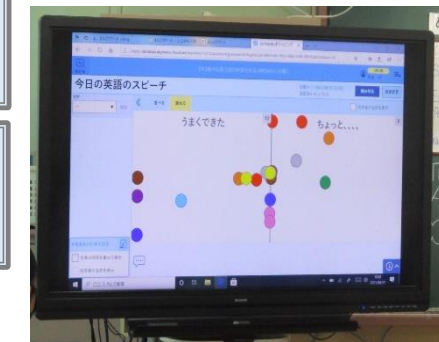
【成果】

- 撮影した動画を確認しながら他者からもアドバイスをもらうなどして「学び合い」を進め、何度も撮影を繰り返し、言語活動の取組を深めることができた。
- 提出された動画を評価することにより、「話すこと」のパフォーマンステストを時間に余裕を持って評価することができるようになった。
- 英語の学習に苦手意識を持つ生徒が興味を持って取り組むことができる。

【課題】

- 伝えたい表現や単語、語句等の発音も各自で調べて準備することができるので、今後時間配分等を考えて取り組ませ、活用させていきたい。
- 指導者によるICTの活用がまだ不十分であるので、今後も研修を進めていきたい。

安芸高田市立八千代中学校



タブレットを活用した遠隔授業までの一連の活動と学習評価 (NEW HORIZON English Course1 Unit2 Our New Teacher)

①話・や

①統合

②協・遠

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

「一人一台のタブレットの効果的な利用」

一人一台のタブレットを用いて個別に他校の生徒と交流する機会を設けることで、自己紹介と相手とのやり取りをする活動を行う必然性を持たせることができる。また、一人一人の活動の場を保障することもできる。

【実践の目標】

相手に自分のことが伝わるように、自己紹介の内容を整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

【実際の場面】

1. ALT による自己紹介のモデル

ALT による自己紹介のモデルを聞いて内容を理解した後、そのプレゼンテーションを参考にペアで自己紹介の練習をした。

2. 自己紹介文の構成を考える

モデル文を参考に、自己紹介文の構成を考えて作文した。

3. ペアでお互いの紹介文を読み合う

自己紹介について生徒同士で相互評価した。

4. 紹介文を見直し、加筆修正を行う

小グループで、再度評価し合った。相手に自分のことが伝わるように紹介文の内容について生徒同士で互いに助言をした。小グループで分かれる時に、個別にタブレットの接続確認を行った。

5. 遠隔授業

千代田中学校との遠隔授業を行い、個別に自己紹介をし合った。また、相手の話した内容に合わせて質問したり、相手の質問に答えたりした。

6. 遠隔交流

姉妹校となったオーストラリアの学校との一斉交流授業を行った。テレビモニターにて交流した。

7. パフォーマンステスト

後日、ALT とのインタビューテストを実施した。その会話の様子を撮影し、指導者が評価した。

【成果と課題】

【成果】

- 一人一台のタブレットでの活動を設定できたことで、「自分が伝えなければいけない」という必然性を持たせ、すべての生徒に活動を行わせることができた。
- これまで活動に消極的だった生徒に自信が付き、次の活動に対するモチベーションの向上につながった。

【課題】

- 通信環境が整っていないと実施することは難しい。さらに、機器のトラブルが発生した場合、時間内に修正できるように、教師自身が対応できるようにする必要がある。

安芸太田町立安芸太田中学校



既習事項を活用し、即興性を持って会話を続ける活動 (NEW HORIZON English Course 1 Unit 2 Our New Teacher)

①話・や

②協・発

②協・遠

②評価

③タブ

【ここがポイント！】

④Google スライド

①「帯活動での活用」

ペアで Google スライドに貼ったトピックに対して、既習事項を活用しながら質問したり、リアクションしたりしながら、会話を継続させる活動や、単語学習として「Secret words」を繰り返し実施した。ペアの対話の長短に対して、それぞれのペースでトピックを変えて練習することができるため、帯活動等で活用している。

②「自己紹介シートの作成」

Google スライドを活用して、自己紹介文を作成した。自分を最大限にアピールできるように、Google 翻訳等を活用したり画像を貼り付けたりと、生徒自身が表現したいことを表現するために工夫する姿が見られた。この自己紹介文を活用して、遠隔授業やパフォーマンステスト等を行った。

【実践の目標】

ペアで自己紹介をし合い、即興で質問したりリアクションをしたりすることができる。

【実際の場面】

1. ペアで自己紹介をする

既習事項を活用し、ペアで3分間、自己紹介をした。

2. ペアでリアクションの仕方を練習する

Google スライドを活用し、相手が話した内容についてどのようにリアクションをしたらよいか考え、練習した。



3. ペアで質問の仕方を練習する

Google スライドを活用し、相手が話したことに関連することについてどのような質問をすべきかを考え質問しあう練習をした。

4. 自己紹介シートの作成

既習事項を活用し、どんな自己紹介をするか考えた。その際、Google 翻訳や画像を活用し、自分のことを最大限に表現できるように工夫した。

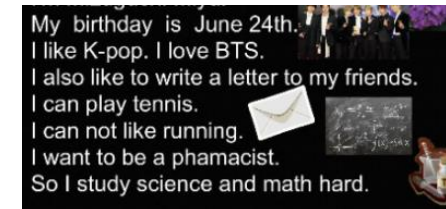
5. 遠隔授業（安芸太田中学校1年生）

自己紹介シート等を活用し、安芸太田中学校の1年生と自己紹介をし合った。

6. パフォーマンステスト

ペアで自己紹介をし合い、即興で質問したりリアクションをした（指導者はペアでのやり取りを評価する）。

北広島町立千代田中学校



【成果と課題】

【成果】

○Google スライドを活用することで、ペア学習時において対話の長短に対して、それぞれのペースでトピックを変えながら練習することができるので、より多くの会話をする事ができた。また、自己紹介シートにおいて、画像等を貼り付けることが容易になり、自分自身のことを最大限にアピールすることができた。
○ICT を活用することで、遠隔授業をすることができ、効果的かつ必然性のある場面を設定することができた。

【課題】

○操作に慣れておらず、タイピング等に時間がかかった。また、生徒の学習の定着を図るためにはどのような場面で ICT を活用するべきかを考える必要がある。

(別紙様式)

目的と相手意識をもって話す活動とその評価
(NEW HORIZON English Course 3 Unit 2 Haiku in English)

①話・発

②クロムブック

③個・表

③評価

④ Google Jamboard

【ここがポイント！】

今回の活動のポイントは2つ

①【端末で動画を共有する】

カナダにいる元ALTにもGoogle Classroom（英語）に参加してもらい、生徒のフォト俳句を共有する。それを見た元ALTから動画でメッセージと質問をもらい、それにこたえる内容を加えた俳句説明文を動画撮影して提出し、指導者はそれを評価する。

②【ジャムボードの有効活用】

Google Jamboardでフォト俳句をつくる。ペアやグループで見合ってコメントを貼り付ける。提出したフォト俳句に元ALTからもコメントや質問を貼り付けてもらって返却する。動画を撮る時は端末画面でフォト俳句を見ながら話をする。

【実践の目標】

フォト俳句を用いて自分が好きなことや取り組んできたことを具体的に説明することができる。

【実際の場面】

1. 俳句と英語俳句の違いを整理して、英語のフォト俳句をつくる。

自分が表現したい内容を表している写真を選んだりトピックとキーワードを決めたりしました。3行でリズム等の英語俳句の特徴を意識しながらつくりました。

2. フォト俳句で好きなことや取り組んできたことについて話す。

ジャムボードでつくったフォト俳句を友だちに見せながら現在完了形を使った文を入れて説明しました。ペアで質問をしたり感想を言ったりして内容や話し方等を改善していきました。

3. 元ALT（アメド）に自分がつくったフォト俳句を紹介する。

カナダにいるアメドとフォト俳句を共有し、ひとりずつコメントや質問をもらいました。それをふまえてフォト俳句について説明する動画を撮りました。

4. ペアで動画を見合って改善する。

アメドに送る動画をペアや自分で見て、より伝わりやすくなるように改善していきました。何度も撮影し、最後に完成版を提出しました。

5. フォト俳句を味わう。

クラス全員がどんな俳句をつくっているのかを見て話をしました。自己目標の達成状況を振り返り、次の課題を明確にしました。

6. 評価を行う。

後日、フォルダに提出された動画を、指導者が評価しました。

三原市立久井中学校



【成果と課題】

【成果】

- 自分の動画を生徒が何度も見て振り返られることで、自己調整ができた。
- 端末に外国にいる元ALTから動画が届いたり生徒全員の作品を共有できたりすることで、目的や相手を意識して内容を工夫しながら主体的に話すことができていた。
- 生徒が提出した動画を指導者用端末で見て「話すこと」として評価することができた。

【課題】

- 話す内容を改善するためのペア活動も英語で行うと言語活動が充実するので、単元を通して英語でのやりとりの時間を確保したり指導したりする必要がある。

タブレットを活用した ALT へのおすすめスポット紹介活動 (NEW HORIZON English Course 2)

①話・発

①書く

②一斉

③タブ

【ここがポイント！】

「一人一台端末を活用したスピーチ発表」

新型コロナウイルス感染症拡大のため、大きな旅行に行けない ALT に対して、広島県内のおすすめスポットを英語で伝えるメッセージ動画を作成する。

ALT が興味を持っていることについて、情報を収集したり、ALT に伝えることを整理したり、ALT に分かりやすく伝える表現や、方法を考えたりすることができる。動画を撮影するにあたって、ループリックを作成し、それを基に繰り返し練習することができる。撮影した動画を、Google クラスルームを通じて ALT に送り、後日 ALT から、生徒の動画についてのコメントやフィードバックが届く。生徒は、ALT からのコメントやフィードバックを基に、相手意識を持った英語によるコミュニケーションについて、考えることができる。

【実践の目標】

ALT に紹介したいおすすめスポットについて、ALT に分かりやすい内容や話し方を考えながら、英語で伝えることができる。

【実際の場面】

1. 課題を設定する

ALT が、新型コロナウイルス感染症拡大のため、大好きな旅行ができず、また、母国に一時帰国することもできない状況であることから、広島県内のおすすめスポットを紹介するメッセージ動画を作成しようと提案した。

2. ALT の先生に伝えたい情報を整理する

ALT に紹介したいスポットについて伝えるために、ALT の好きなことや、興味のあることについて、情報を収集した。収集した情報を基に、マインド・マップを活用し、どのように組み立てたらよりよく伝わるか、ALT に興味を持ってもらえるか考えた。

3. やり取り

マインド・マップを基に、生徒同士で簡単なやり取りを行った。やり取りの後、スピーチ原稿を作成した。その際、Google の機能を使って、発音や、自分が伝えたい内容を、よりの確に伝えられる表現についても調べた。

4. ループリックを活用した練習を行う

相手に伝える際に大切にしたいポイントに関するループリックを提示、内容を確認し、自信を持って動画撮影できるまで、何度も練習をした。ループリックでは「声の大きさ」、「アイコンタクト」、「話すスピード」等も示した。

5. 動画の作成

相手意識のある伝え方に留意しながら、練習を行った後、各自で動画を撮影した。自分の納得のいく動画が撮れるまで何度も練習を繰り返し、撮影した。また、撮影した動画は Google クラスルームを通して、ALT に提出した。

6. 評価を行う

後日、ALT から、Google クラスルームを通して、コメントやフィードバックが返却された。生徒は ALT からのコメントやフィードバックを基に、次の学びにつなげるにはどうしたらよいかを考えた。また動画を基に、指導者が評価を行った。

【成果と課題】

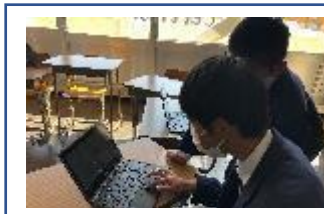
【成果】

- スピーチ動画を撮影して提出するため、生徒達は何度も練習・撮影を繰り返した。そのことにより、言語活動の量・質が向上した。
- 英作文をする際に、友達や教員に質問するだけでなく、自分で検索することで、質問の順番を待つ時間がなくなる等、生徒は自分のペースで学習を進めることができた。

【課題】

- 授業中にヘッドセットがない状態で動画撮影をしたため、他の生徒の音声が入り込んで聞き取りづらい動画になった。タブレットだけでなく付属の機器も必要となる。
- ループリック作成の際には、技能に関するだけでなく、主体的に学習に取り組む態度についても取り入れ、評価を多面的に行う必要がある。

尾道市立因北中学校



「私の～歴」のプレゼンテーションの発表まで クロムブックを活用

(NEW HORIZON English Course 3 Unit2 Haiku in English)

①話・発

①統合

②個・表

②評価

③タブ

④Google スライド

【ここがポイント！】

「クロムブックの Google スライドを活用」

現在完了を学習したまとめとして、スライドを活用して「私の～歴」のプレゼンテーションを行う。そのプレゼンテーションに使用する写真、絵、動画を取り込みスライドを作成する。表現したい英語や語句をクロムブックで調べる。ペアやグループでの練習を撮影し発表当日に生かす。発表はテレビ画面に生徒のスライドを映し出して、全体で行う。指導者は全体で発表したものを評価する。生徒自身のクロムブックでも発表を撮影し、生徒自身で振り返りをした後提出する。提出したものを ALT や他の英語教員に見てもらい評価をすり合わせ客観的に評価を行う。

【実践の目標】

「私の～歴」で自分が表現したいことについて、写真や絵を活用した聴く側に分かりやすいプレゼンテーションを作成することができる。

【実際の場面】

1. 資料を集め、スピーチ原稿の流れを考える

プレゼンテーションを行うための写真や図、動画を集め、文章の構成を考えたい。

2. スライドでプレゼンを作成する

Google クラウドで与えられた課題のスライドでプレゼンテーションを作成する。スライドの Speak にプレゼンテーションのキーワードを打ち込んだ。



3. ペア・グループで練習する

各自で作成したスライドを活用しながら、ペアやグループで練習し、スライドや表現の分かりやすさなどを交流し、プレゼンに向けてスライドの順番や表現を改善した。

4. 発表の練習を撮影する

改善したスライドや表現でプレゼンに向けて各自で練習を行い、その後ペアで練習を撮影した。撮影されたものを見て、表情やジェスチャーなどをチェックしさらに練習を重ねた。

5. 評価を行う

スライドを Google クラウドで提出し、そのスライドを教室のテレビ画面に映し出し、クラス全体でプレゼンを行い、評価した。

6. 振り返りを行う

クラス全体に向けてプレゼンをしているところを発表者のクロムブックを使って指導者が撮影を行い、各自で振り返りをした。後日プレゼンの動画を Google クラウドで提出した。提出された動画を指導者は ALT や他の英語教員と評価した。

【成果と課題】

【成果】

- プレゼンテーションの練習をペアで撮影したものを活用し、伝え方の工夫や表現をより伝わりやすいものに改善させることで、生徒の思考や表現活動の質を上げることができた。
- 提出された動画を ALT や他の英語教員にも見てもらい、複数の視点で評価することができた。

【課題】

- 学習のどの場面で活用するとより効果が得られるのか検討していく必要がある。

府中市立第一中学校



オーストラリアの姉妹校との Web 会議までの活動

Welcome to Jinsekikogen Junior High School .
(NEW CROWN English Series 3 Project 2 国際交流イベントに出展しよう)

①話・発 ②協・遠 ③タブ ③Web カメラ ④Zoom

【ここがポイント！】

「Welcome to Jinsekikogen Junior High School ~Web 会議で日本文化を紹介しよう~」という単元を設定する。

オーストラリアのバンダバーグ・クリスチャン・カレッジ校の8年生に対して、各グループが決めたテーマで日本文化等を紹介するプレゼンテーションを実施する。

Web 会議で実際にやりとりする際に、どのようにしたら相手に効果的に伝わるかを各グループで考えて、発表する。

【実践の目標】

自分で目標を立てたり仲間と協力したりしてコミュニケーション活動や発表練習に取り組むことができる。正しい語順や語法を用いて、日本文化について相手に分かりやすく説明することができる。

【実際の場面】

①パフォーマンス課題を提示する

生徒が主体的に学習に取り組もうとする態度を育成するため、パフォーマンス課題として上記の課題を提示し、発表するテーマを検討・決定した。

②日本文化等について、内容にまとまりのある紹介文を書く

日本文化等についての紹介文のモデル原稿を確認することで、その構成や原稿の書き方のコツをつかんだ後に英文作成をした。



③プレゼンテーションソフトで視覚資料を作成する

作成した紹介文に関連する視覚に訴える資料を作成した。プレゼンテーションソフトの資料に付け加えて、実物を準備して活用するグループもあった。

④グループ内で原稿等の交流をする

個人で原稿・視覚資料を作成した後に、グループ内で互いの原稿や視覚資料を推敲した。説明文ばかりになっているグループはクイズ形式を取り入れて、相互にやりとりができるように修正した。

⑤プレゼンテーションの発表練習をする

ALT や JTE に対して、グループでの発表練習を行い、声量・発音・スピード・プレゼンテーションソフトや実物の提示の仕方について良い点・改善点を把握した。

⑥自己・他者評価を基に再度練習を行い、発表の修正・改善を図る

作成したプレゼンテーション等を用いて発表リハーサルを行い、他者の発表から良さを吸収したり自分達で発表を修正・改善したりする場面を設定した。

【成果と課題】

【成果】

○ICT を用いた Web 会議という活動を設定したことで、姉妹校の生徒達とお互いの顔を見ながら実際に英語でコミュニケーションを取れて、生きた英語に触れることができ、国際感覚の育成やコミュニケーション能力の向上に繋がった。

○画面上を通して、英語を用いた簡単なやりとりができたり、既習事項を用いた表現を実際に使ったりすることができた。

【課題】

○原稿作成・英語での発表練習よりもプレゼンテーションソフトでの資料づくりに時間をかけたグループがあった。活動の主な目的・本単元の評価規準の周知がさらに必要である。

神石高原町立神石高原中学校



タブレットを活用した生徒の音読を向上させる活動と学習評価 (Here We Go! ENGLISH COURSE 2 Unit3 Plans for the Summer)

①読む

②個・学

②一斉

②評価

③デジ教

【ここがポイント！】

③タブ

④Google クラスルーム

①「教科書の二次元コードを活用する。」

デジタル教科書を活用し、本文内容理解を行う。ピクチャーカードを見せながら本文の導入（口頭質問）をしたり、動画やアニメーションを見せたりし、教科書本文の内容理解を促す。内容理解を十分に行った後は音読練習を行う。まずは教師の後について何度か発音練習をした後、音読のポイント（発音、アクセント、イントネーション、音のつながり）を与え、二次元コードを読み取り、個別に音読練習を行う。

②「音読動画を提出し、評価する。」

十分に音読練習をした後に、自分の音読を動画で撮影する。撮影後はペアで見て、アドバイスをする。その後、再び音読練習をし、動画を撮影して、Google クラスルームに動画を提出させた後、指導者が個々の音読を評価する。

【実践の目標】

自分の音読を客観的に見て、自分の音読を改善することができる。

【実際の場面】

1. 本文の内容を理解する

デジタル教科書を用いて、ピクチャーカードを見せたり、動画やアニメーションを見せたりし、内容理解の手立てをした後、本文に関する英問英答をし、内容理解をさせた。

2. 音読練習①（一斉）

教師の後について発音練習を行ったり、デジタル教科書の音声（少し遅め）の後について音読練習を行った。

3. 音読練習②（個人）

音読のポイント（発音、アクセント、イントネーション、音のつながり）を確認した。イヤホンを装着し、二次元コードを読み取り、個人で練習をした後、各自の音読を動画で撮影した。

4. ペアで音読動画を見合い、アドバイスする

音読を見合い、改善点を指摘し合った。また、自分自身が音読している姿を見ることで、客観的に分析することができ、良い点や改善点を自分自身で見つけることができた。

5. 音読練習③（個人練習）

4. で出た改善点を改善できるように、もう一度音読練習を行った。

6. 動画を撮影し、Google クラスルームに提出

個人練習後、もう一度音読を動画で撮影をし、Google クラスルームに提出をした。

7. 評価を行う

後日、生徒が Google クラスルームに提出した動画を指導者が評価を行った。

【成果と課題】

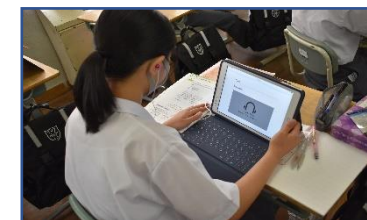
【成果】

- 音読動画を撮影することで、生徒は自分の音読を客観的に分析することができ、音読のポイント（発音、アクセント、イントネーション、音のつながり）ができていたかどうか自己評価することができた。また、できていないところに関しては、そこを意識して再度音読練習をし、改善につなげることができた。
- 動画提出をさせることで、指導者が動画を何度も見返すことができ、評価をする際に非常に役立った。
- 音読のポイントを意識させることで、生徒は正確に音読ができるようになってきた。今後は、相手に伝えるために読むことや、音読の目的を意識させることで、更に音読の質を高めていきたい。

【課題】

- 二次元コードを読み取って、音読練習をする際、音声が多く、音声についていくのが難しい生徒がいた。そのような生徒への手立てが必要である。

三次市立八次中学校



タブレットを活用した音読テストまでの一連の活動と学習評価 (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 PROGRAM 2 Leave Only Footprints)

①読む

②個・学

②評価

③タブ

③デジ教

④Google クラスルーム

【ここがポイント！】

①「動画撮影による自己評価」～十分な音読量の確保～

生徒はデジタル教科書の音声を聞きながら練習をする。その後、一斉に音読テストに取り組み、音読の様子をタブレットで撮影する。撮影した動画を客観的に見直し、教科書に書かれた内容が表現されるように音読できているか自己評価をする。授業時間内であれば何度でも撮り直すことができるため、改善点を考えながら繰り返し音読をすることができる。

②「Google クラスルームへ動画の提出」～提出された動画の評価～

生徒は撮影した動画の中から、納得のいく音読ができたものを選択し、Google クラスルームへ提出する。指導者は授業後に動画を見比べたり、巻き戻したりしながら、落ち着いて評価ができる。また、動画ファイルはGoogle クラスルームに保存されるため、生徒の英語力の変容を見取ることもできる。

【実践の目標】

教科書本文の内容が表現されるように、英語特有の発音・アクセント、抑揚や強弱のつけ方、間の取り方、音量、速さなどを意識し、音読をすることができる。

【実際の場面】

1. デジタル教科書を活用した音読

生徒は、デジタル教科書の音声を聞き、音読をした。ヘッドセットを使用することで、周りを気にすることなくデジタル教科書の音声を聞いていた。自身の力に合わせて音声の速度を変えたり、本文を表示せず、音声のみを基に音読したりした。



2. 音声認識機能を活用した発音練習

発音が正しいか確認するために、Google 翻訳の音声認識機能を活用した。発音が正しくないと、不正確な文章が表示されるため、生徒は正しく聞き取ってもらえるよう、繰り返し練習した。

3. タブレットで動画の撮影

自分の音読を客観的に聞き、改善につなげるために、生徒は音読の様子を撮影し、何度も見直した。納得のいく音読になるまで、発音やスピードなどを意識しながら練習を重ねた。

4. Google クラスルームへ提出

指導者は、Google クラスルームへ音読テストの課題を投稿した。生徒は各自割り当てられたGoogle アカウントでログインをした後、撮影した動画の中から、上手くできたと思う動画を選択し、提出した。

5. 提出された動画の採点・評価

指導者は授業後に、Google クラスルームに提出された動画を採点・評価した。

【成果と課題】

【成果】

- デジタル教科書の音声を基に練習するため、発音・アクセントだけでなく、抑揚や強弱のつけ方、間の取り方が身に付き、感情を込めた音読ができるようになった。
- 自分の音読の様子を見直しながら練習できるため、客観的な反省を生かして練習することができた。
- 各自で一斉に音読テストに取り組むため、十分な練習量を平等に確保できることに加え、動画として残るため、評価の際に見直したり見比べたりすることができた。

【課題】

- 一斉に音読をするため、動画の中では他の生徒の声と重なってしまう。
- 他の生徒の練習を妨げないように気を遣い、声小さくなりがちであった。
- 書かれた内容を理解し、内容にふさわしく音声化したり、相手意識を持って読むなど、音読をすることの目的や意義を、生徒に意識させた上で活動に取り組みせていく必要がある。

庄原市立東城中学校

